2024年度第３回ファイナンシャル・プランニング技能検定１級実技試験

Part Ⅰ（2025年２月15日）　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

●設　例●

Ａさん（65歳）は、大都市圏で雑貨の卸売業を営むＸ株式会社（非上場会社）の２代目社長である。得意先である中小小売店のニーズにきめ細かく対応することで、全国に強固な販売網を築いており、業績は堅調に推移している。

Ａさんには年の離れた弟Ｂさん（53歳）と妹Ｃさん（51歳）がいる。弟ＢさんはＸ社で専務取締役を務めており、Ａさんをサポートするほか、昨年、Ｘ社の100％子会社であるＹ社を設立し、ＥＣサイトと百貨店の催事を通じた雑貨の小売をスタートするなど、新規事業を主導している。

【事業承継について】

Ａさんは、弟Ｂさんの経営手腕を高く評価しており、弟Ｂさんへの承継を既定路線としている。そこで、来期から弟Ｂさんに社長職を譲り、自身は会長として、２人が共同代表となる体制に移行することとした。Ａさんは70歳で会長を退任し、弟Ｂさんへの経営権移行を完了することを考えている。

なお、Ａさんの親族のうち、Ａさんの長女（30歳）がＸ社に、弟Ｂさんの長女（25歳）がＹ社に在籍しているが、現時点で次世代への事業承継について明確な考えはない。

【Ｘ社株式について】

現在はＡさんが筆頭株主であるが、当面は弟Ｂさんの持株が過半数となるようＸ社株式の移転を進めたいと考えており、円滑な事業承継を目的として、数年前からＸ社株式の移転を始めている。具体的には、Ａさんが保有するＸ社株式について、毎年、贈与税の基礎控除額前後の金額分を弟ＢさんおよびＡさんの長女に贈与している。また、妹Ｃさんの持株は弟Ｂさんが買い取ることで調整している。Ａさんは、今後、本格化するＸ社株式の移転に備え、Ｘ社株式の今期の評価額がどうなるか、取引の種類や相手によって評価額がどうなるかについて詳しく知りたいと思っている。

【Ｘ社の概要】

資本金：1,000万円　　会社規模：中会社の大　　従業員数：40人
売上高：28億円　　経常利益：2,000万円　　純資産：４億円
株主構成（発行済株式総数２万株）：Ａさん60％、弟Ｂさん35％、妹Ｃさん３％、Ａさんの長女２％
株式の相続税評価額：類似業種比準価額5,000円／株、純資産価額18,000円／株

【Ｘ社の今期の自社株評価にあたって考慮すべき事項】

①　３年前に新本社（土地・建物）を購入価額３億円で取得した。
②　賃貸用不動産として、居住用区分マンション１戸を保有している。
③　昨今の物価高騰に伴う仕入および販売価格の上昇により、今期の売上高は31億円と見込まれている。
④　昨年設立したＸ社の100％子会社であるＹ社の株式の簿価は1,000万円、相続税評価額は今期1,500万円と見込まれている。
⑤　経営者リスクと退職金準備のための役員保険および福利厚生目的の養老保険（ハーフタックス・プラン）を今期導入した。

（注）設例に関し、詳細な計算を行う必要はない。

検討のポイント

●設例の顧客の相談内容および問題点として、どのようなことが考えられるか。
●それらの相談内容および問題点を解決するために、どのような提案・方策が考えられるか。
●それらの方策（解決策）のなかで、何を顧客に提案するか。その理由・留意点は何か。
●ＦＰと職業倫理について、どのようなことが考えられるか。

【Ａさんの家族構成】

妻　（60歳）：専業主婦。Ａさんと自宅で同居している。
長女（30歳）：Ｘ社で経理を担当している。会社員の夫と２人で賃貸マンションに居住している。
二女（28歳）：会社員。Ａさんと自宅で同居している。

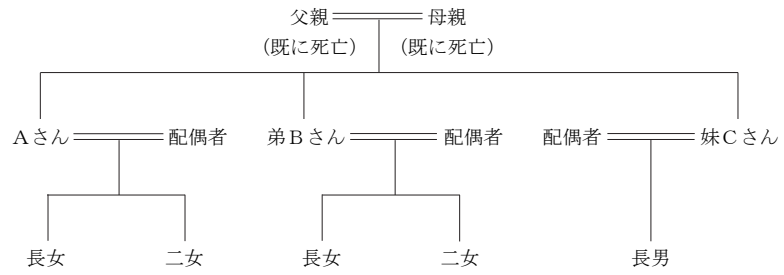
【弟Ｂさんの家族構成】

妻　（52歳）：専業主婦。弟Ｂさんと自宅で同居している。
長女（25歳）：Ｙ社で営業を担当している。弟Ｂさんと自宅で同居している。
二女（20歳）：大学生。弟Ｂさんと自宅で同居している。

【妹Ｃさんの家族構成】

夫　（55歳）：会社員。妹Ｃさんと自宅で同居している。
長男（21歳）：大学生。妹Ｃさんと自宅で同居している。

【親族関係図】



（メモ余白）